赤瓦もどむの本

HC 花とゆめ

龍ヶ嬢七々々の埋蔵金 全2巻
著作：鳳乃一真 キャラクター原案：赤りんご

花とゆめ HC

龍ヶ嬢七々々の埋蔵金【2】

ISBN978-4-592-21752-7
C9979 ¥429E
定価 本体429円+税
雑誌43808-44

七々々コレクション探しをする謎解きに入った重傷&自称冒険家探偵・天矢！七々々にもらったヒントから探しあてた"連絡"は、七重箱の一番底く新しいビル！！危険な"連絡"に挑む鳳凰たちだが、そこにひそむ恐わぬ"敵"も…!?
孤島のトレジャーハント・ロワイヤル!!

収録作品
龍ヶ嬢七々々の埋蔵金2
（花とゆめ2015年6号掲載）
2015年8月号

鳥取県出身 2月6日生まれ A型
今ハマっているのは、
晴れた日に音楽を聴きながら
散歩すること。

読み終わったら、こう思える…
でかい野望、上等じゃん!!
ノイタミナで
アニメ化した人気ボードゲームコミカライズ!!
赤瓦もどむ 原作：鳳乃一真 キャラクター原案：赤りんご
白泉社

最新話が毎週無料!!
花LaLa online
「フルーツバスケット another」高屋奈月
9月4日連載スタート♪
花LaLa で検索

赤瓦もどむ「兄友」1話目も読める☆(2015.6.21~)
※一部ログインなしで見られないこともございます。ご了承ください。

最新話がいつも無料!!
花とゆめ にて
赤瓦もどむ「兄友」
シリーズ連載中♥

うすーい壁ごしに聞こえる、兄と彼の会話に
どきどきするドキマギ必至!
ウブすぎる2人の、甘こしっつ焦ばしLOVE☆

赤瓦もどむの本

HC 花とゆめ

龍ヶ嬢七々の埋蔵金 全2巻
著作：風乃一真 キャラクター原案：赤りんご

Cover Illust. Modomu Akagawara
Cover Design. Yoh Nakanishi(fabio augire)

HC HANAYUME COMICS 花とゆめ

赤瓦もどむ
Modomu Akagawara

[原作] 風乃一真 [キャラクター原案] 赤りんご

龍ヶ嬢七々々の埋蔵金 2

花とゆめ HC

龍ヶ嬢七々々の埋蔵金 (2)

赤瓦もどむ
[原作] 風乃一真 [キャラクター原案] 赤りんご

白泉社

Nanana's Buried Treasure

ISBN978-4-592-21752-7

C9979 ¥429E

定価 本体429円+税

雑誌43808-44

どんなコレクション探しをする冒険際に入った重識白秋を探偵・天矢!
どんなにもちったヒントから
探しあてた"連絡"は、
七重前で一番近く新しいビル…!
危険な"連絡"に挑む重識たちだが、
そこにひそむ思わぬ"敵"も…!?
混乱のトレジャーハント・ロワイヤル!!

収録作品
龍ヶ嬢七々々の埋蔵金2
「STILL in a state of」
2015年8月号

赤瓦もどむ

鳥取県出身 2月6日生まれ A型
今ハマっているのは、
晴れた日に音楽を聴きながら
散歩すること。

毎月5日・20日発売
花とゆめ
コミックスは毎月20日発売
http://www.hanayume.com/hanayume/

HC
HANATOYUME COMICS
花とゆめ

龍ヶ嬢七々々の埋蔵金

2

赤丸もどむ　[原作]
[キャラクター原案]

花とゆめ
龍ヶ嬢七々々の埋蔵金
2
赤丸もどむ

HC
HANATOYUME COMICS
花とゆめ

発行
白泉社

HANATOYUME COMICS
花とゆめ

龍ヶ嬢七々々の埋蔵金

2

赤瓦もどむ［原作］鳳乃一真［キャラクター原案］赤りんご

龍ケ嬢七々々の埋蔵金

りゅうがじょうななのまいぞうきん

Nanana's Buried Treasure

Vol.2

Contents

第3話 003

第4話 021

第5話 045

第6話 069

第7話 081

第8話 101

第9話 117

最終話 135

おまけ 162

あとがき 167

◆この作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件などにはいっさい関係ありません。

第3話

それでは八真君を冒険部部員として歓迎する
入部おめでとう
にこっ
いよいよ七々々コレクション探しが始まるってわけか…！
早速なんだが八真君
君に重大な任務を任せよう

龍ケ嬢七々々の
Nanana's Buried Treasure
りゅうがじょうななな の まいそうきん
埋蔵金
第3話

ええっ！
唯我君たち
この一年間
成果ゼロなの!?
うん 去年は一個も
七々々コレクション
が見つかんなかった
んだって
そ
そうなんだ…
うーん…
さすがにそれは
ちょっとかわいそう
だなあ…
ムッ
いやっ！でももっ
だからといって
場所を教えたりは
できないよ！
お宝は自分で
探してこそ
だしょ！
そっかぁ――…
そうだよね…
ハァ――…
う
…うん…
…部長さ
けっこう熱く
語ってたよ…
「これは命がけだ」
って真剣な表情
でさ…
えっ…
そ…
そうなんだ…

かかってる…
かかってる!!

すごい！部長の言うとおりにしたら七々々ちゃんが悩みはじめたぞ！

七々々さんは同情を誘うと効果的だ

そーれもういっちょ！

ああ～～～っ最初くらい何かデッカいことしたいよなぁ～

ソワソワ

にっ

入部祝い!!

重護の入部祝いってことで特別にヒントだけなら…

そらきたー!!

ただし

ただではあげないよ？

にこっ

ダム…
ダム…
千手
トン…
りゅ…
龍…ケ嬢…
センパイ…？
ドキン…
ねえ
重護…
私 プリンが
食べたいなぁ…
ドキン
ツ…
ドキン
いつもみたいに…
食べさせて…？
ドキン…

あ――
ん
何でも100円の安プリンなのよ!!
えぇえぇえぇえぇえぇえぇ
りゅうがじょうセンパ――イッ!!
りゅりゅりゅっ
ぽくっ

※服装等はすべて想像上のものです。

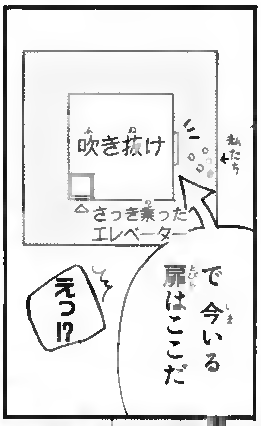
遥か天にそびえる
塔の中
ガラスの箱の中に
それは眠る
だろう

この春に完成したばかりでこの島で一番高いビルだ
――ライジングビル
ウィーーーン
ヒントに該当するのはここくらいだろう
とてもあの危険な《遺跡》がある場所には思えないが
なあ重護？
ってうわなんだきもちわるい
キラキラ
キラ
いやこのビルあの天才建築家の諦巳狛が設計した一万件目の建物らしくて…
ファンなのかっ
とりあえずみんな二手に分かれて遺跡を探そう

いや
その必要(ひつよう)は
ないだろう
え？
もう見(み)つけた

ここか…？
普通の扉に見えるけど…

実はここに来ると分かった後事前にこのビルをザッと見てまわったのだが
吹き抜け
さっき乗ったエレベーター
このビルは上から見ると大体こんな風に真ん中が吹きぬけになっている


吹き抜け
さっき乗ったエレベーター
で 今いる扉はここだ
えっ!?

扉を開けたら落ちちゃう!!
ヒュ〜ン
ブルブル
きゃ〜落ちるかどうかはさておき

本来ならば吹き抜け部分に部屋があるはずそれならばそれらしきでっぱりがなければおかしい
だが先ほどエレベーターで降りてきた時そんなものは見当たらなかったどうだあやしいだろう?
すごいな…お手柄だよ天災君
ムーハハハハ
にゃーつはっはっいや! 流石わたし!!

だが扉の暗証番号はわからない!!
潔いな
重
手がかりはこの建物の中にあるはずなんだ
えっ
遺跡の特徴なんだよ
先に進むためのヒントや答えはその部屋の中あるいは周辺に必ずある
とりあえず…ここは七重島にある62階建てビルの34階だから…と
…はハズレだったみたいだ!
死ぬとこだったんスけど!?

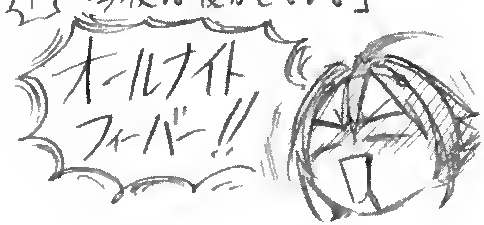
…あ…
ちょっとどいてて
もらえます？
ズイッ
ピッ
ピッ
ピッ
え？
ちょっちょっと
アンタ…!!
八真君
!?
待つんだ
一体何を――
ピピピ――
カチャッ
ぽかん…
睦巳狛の
「6」と誕生日
です
「6※1011」
…す
すごいね…

では ここからは
選抜メンバーで
行こうと思う
メンバーは僕と
八真君
そして
天災君
夕はダルク君と
ここで待機して
いてくれ
天災
気をつけて
ね
はい
お気を
つけて…
ハッ
今っ…今のすごく
夫婦っぽい…！
きゅん…っ
夕
ブクブク
やる気がないのなら
帰るかい？
いいえ!!
申し訳ありません
始まるな
命がけだってよ
大丈夫か？

ああっ
大丈夫だ
難なくクリア
するから
命は失わない
だよな
どうせクリアするから
命の心配はないよな
それじゃあ…
行こうか
宝探しへ！

・夕の考える夫婦っぽいセリフベスト3

3「家のことは任せたよ」
2「いつも感謝してるよ」
1「今夜は寝かせないよ」



龍ケ嬢七々々の埋蔵金

Nanana's Buried Treasure

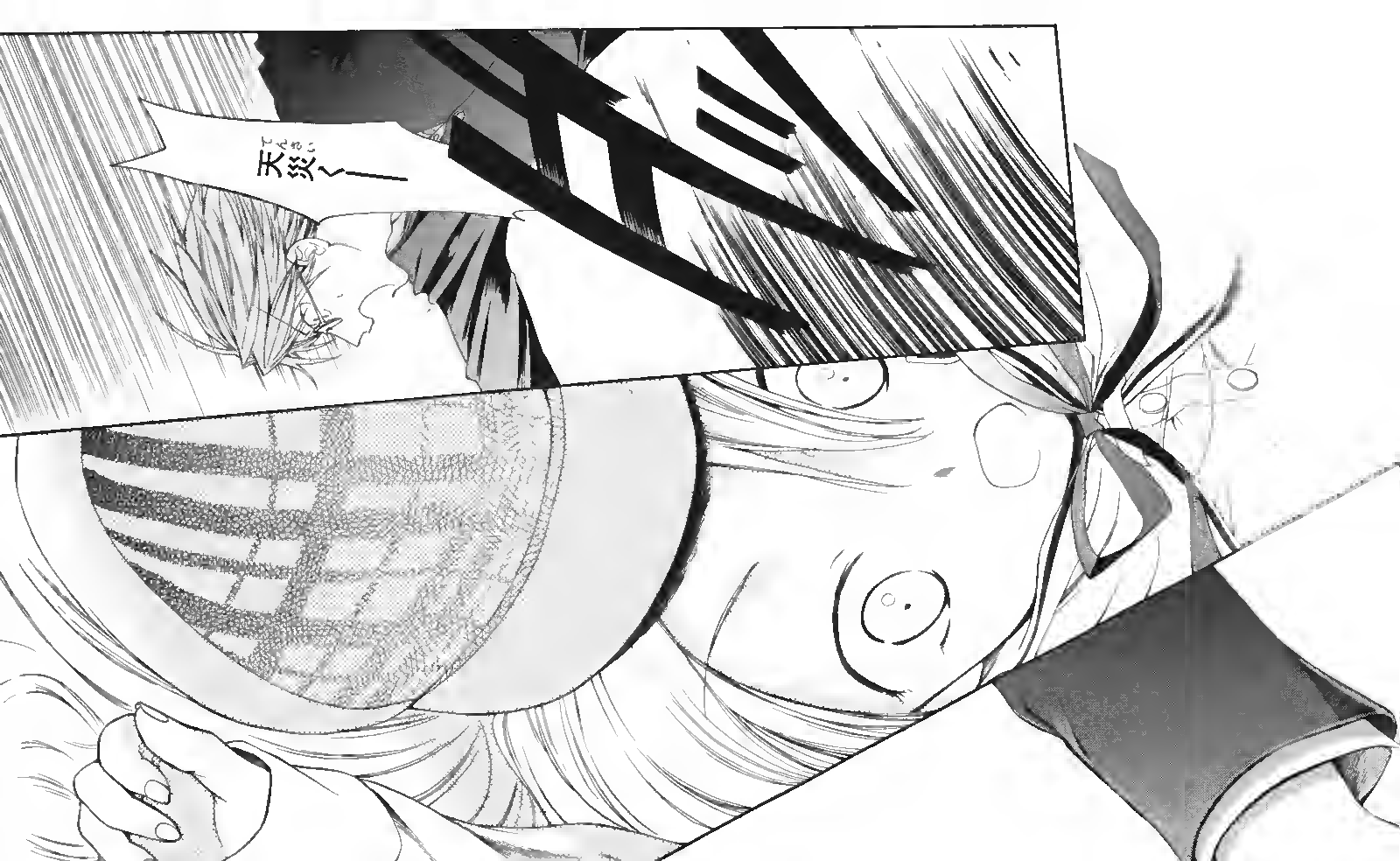
りゅうがじょうななな の まいぞうきん

第4話

ガラスの部屋…？
！
見ろ重護
奥に宝箱がある
学校にあったのと同じ物だ！
まあ当然…
何かしらしかけはあるよな…
…僕から行こう

フ…
フッ
次は俺が行きます

二枚目――
OKです
よし
次…
三枚目も
問題なし…
四枚目…
六枚目――
!!

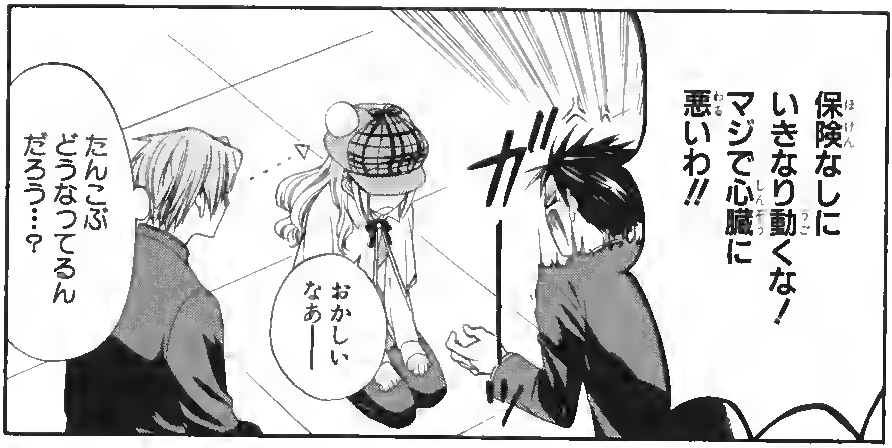

ドさねこ
ドさねこ〜——

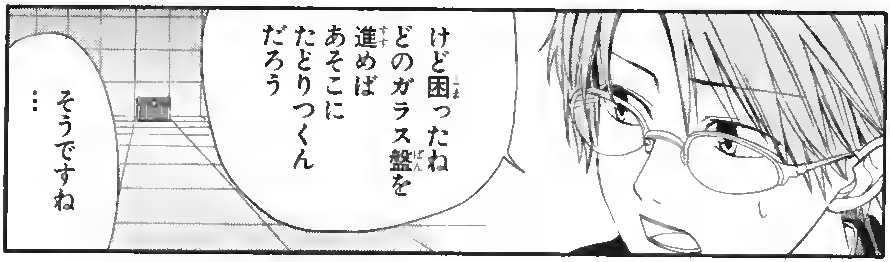
ぬ
お
おおおおお
ぱちくり☆
プラ
ン
ス

これは余裕で死ぬな
言ってる場合か!!

どうやら誤ったルートを進むとガラス盤が抜けるみたいだな
なんでお前そんな冷静なの?
何かヒントはないだろうか…

そうかわかったぞ!
この部屋はライジングビルのマークになぞらえているに違いない!
なんかこんな
つまりこのガラス盤は大丈夫!


保険なしに
いきなり動くな！
マジで心臓に
悪いわ!!
ガー
おかしい
なあー
たんこぶ
どうなってるん
だろう…？


けど困ったね
どのガラス盤を
進めば
あそこに
たどりつくん
だろう
そうですね
…

うーーん…

バン

どうなってんだよ――!!
今の場所は安全じゃなかったのかよ!!?
どうやら床が落ちるのは不規則みたいだな…!
部長 またせーので引き上げますよ
わかった
せ――の
ちょっと待ってくれすべる…
ネ――ッ
カチャ…

重護
クモだ
ガラス盤のうらに
クモがいる！

大丈夫か！
床が抜けるのは奴らの仕業だったんだ！
あいつらがランダムに移動し
ガラス盤を下から引き抜く
カチャ
カチャ
これがこの《遺跡》の正体だ！
チチチ…
だがガラス盤の上からそんなものは見えなかったが…
おそらくガラス盤自体に何かしらの仕掛けがあるのだろう
特定のものだけを見えなくさせるような特殊な仕掛けが――――

弱ったな
法則性すら
ないのか…
どこを通っても
落とされてしまう
……
…私に
考えが
ある…
ピク
重護
お前は私を
片腕で
どれくらい
支えられる？
…
なるほど
な…
五分だ

そんなに
いらない
三分でいい
その間 死んでも
私の手を
放すなよ
…
わかってる
放す気は
ない
死ぬ時は
一緒だ
ボン!!
カ
あいや
そういうアレ
じゃなくて!!
とっ
とにかく
作戦開始だ!!

タッ
タッ
部長
そのまま
三枚前進!!
わかった!
一旦停止
してください!
クモが
動き出したな
三枚右…
いや
左に三枚だ
左に三枚移動!

なるほど
となりの盤から
手を伸ばし 侵入者の
乗るガラス盤を
引き抜く
カコッ
それを自分の身体に
引っ付けて
ぶら下げる…
ということか
おい！
俺らも盤を
移るぞ
一か所にいたら
狙われる！
わかった！

右に三枚
急がせろ
右に三枚
ダッシュ!!
前進二枚
いや 一枚だ
一枚前進!
マズいぞ
クモがこっちに
来る!
二枚
下がらせろ
重護 警戒しろ!
お前の床を
狙っているぞ!
はあっ!?

おい！それって
お前にクモが
襲いかかるかもしれない
ってことじゃないのか！
無駄口を叩くな
なんとかする！
五枚一気に走らせろ！
それでいい
前進四枚…
いや…
ちくしょう！
信じるからな！
部長 五枚
前進ダーッシュ!!
そのまま
一気に走らせろ！
進行方向に
クモはいない！

はあああああっ！

ガバッ
クッ！
やっ――
重護(しげご)よけろ！
うおっ
ガッ

…っ宝箱があいてしまった…
ハイッハイッ…
――

ズズズ
ズズズ
ついたぁー!!
こっちも着きましたよ部長!
一人で宝箱開けるなんてズルいじゃないですかっ
キキッ

一体何が
入って――
ズズ……
ゴゴゴ
!!
ズズズ
部屋が…
崩壊し始めた
――!?
宝箱を開けたら
こうなるのか!?
いや
出口へ行くのは
僕だけだ
け けど間に合わない
程じゃない!
みんな早く出口へ
行くぞ!

二人ともこのまま五分間動くな
何だコレ…体が…！
くっ！
!?
どういうことですか…

唯我部長…！

Nanana's Buried Treasure

龍ケ嬢七々々の埋蔵金

りゅうがじょうななななのまいぞうきん

Nanana's Buried Treasure

第5話

どういう…
ことですか…
唯我部長！
フッ…
なに
七々々コレクションを前に欲に目が眩んだだけだよ
この杖がずっと欲しかったんだよ
僕は
それじゃあね
ちょっ…！

それで何で俺達が置き去りなんですか！
これは三人で見つけた物だ
だけど僕はどうしてもこれが欲しい
それなら
これは僕一人でみつけたことにすればいいそうしたら
争いにならないだろう？
さようなら
二人とも

やった
やった
やった
一心様！
よかった…
ご無事で…!!
ハァ
ハァ

あ…
あの…
ふ
二人は…？
天災はどうしたんですか…？
もしかして中に取り残されてるんですか!?
だったら助けに行かないと――
チッ
ああ…
ダルク君
君は少し眠っていてくれ
ぱたん
ふら…
え…っ

い 一心様…
その杖…！
タ
一鶴春秋に
連絡を取ってくれ
《七々々コレクション》を
手に入れたとね

いるかい？
影虎

ああ

遺跡の壁と床が
崩れて残骸が
落下していったけど
ビルの下の方は
大丈夫だったかい？

そうなのか？
何も変化は
なかったが…

なるほど
それもレプラコーンの仕業かな
何にしても
怪我人が出なくてよかった

…本当にいいのか
一心？

何がだい？

あの二人のことだ

あの二人は僕なんかよりよっぽど
頭もキレるし
腕も立つ

そのうち
勝手に脱出してくるよ

大丈夫だよ影虎

…なあ重護
周りのガラス盤
全部なくなってしまったのに
何でこの床だけポツンと
浮いてるんだろうな

あ…？

そりゃ…
この下に床が
あるから
だろ？

えーと
壁から一部分だけ
迫り出していて
そこから上に
突き出ている感じ？

そうか
なるほど

よし
調べてみよ

うっ!?

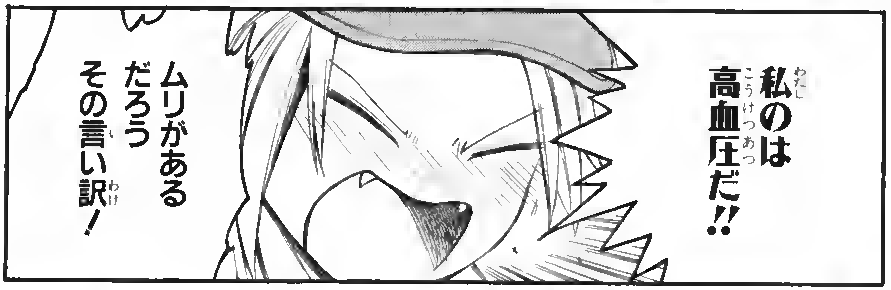
やめろアホ
落ちるぞ!?

何のために
こうやって
抱き合ってバランス
とってると思ってん
だよ！

なにドキドキ
してんだよ
お前…

うるさい
男と抱き合った
ことなんて
ないのだ！

ふふん！
そういう重護も
ドキドキしている
ではないか！
バッ
ちっちげーよ
この状況に
ビビってる
だけだ！
どうだかな！
心拍数が上がって
きたぞ!?
うるさい！
おまえだって
同じだろうが！

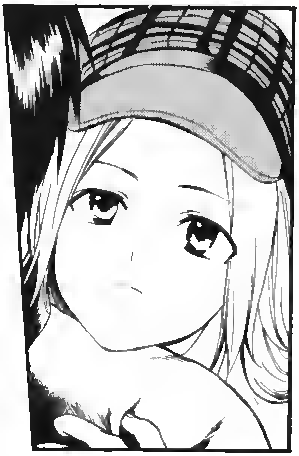

私のは
高血圧だ!!
ムリがある
だろう
その言い訳！

いいから
もうお前
動くな
座ってろ
バーカ
重護の
バーカ
うるさい
お前の方が
バカ
……

さっきから
人の頭の後ろで
カチカチ何を
やっている？

いや
警察に連絡
もしたから
そろそろ助けが
来るだろうし
それまで
暇つぶし
ノンキな
ものだな
そういうお前も
人の後頭部で
ケータイ眺めてる
じゃねぇか
ヒマなのだ
…そういえばさ
お前なんで
名探偵なんて
やっているんだ？

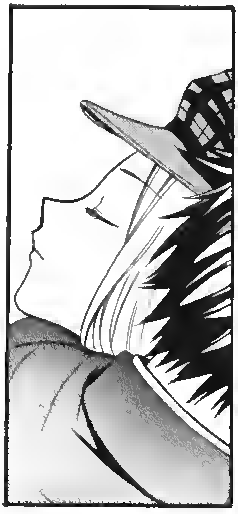
なんだ急に
いや ふと
気になったから…
教えてくんない
のかよ?



憧れだな

憧れ…?

すごいじゃないか
名探偵
誰の心にも残る
優れた存在だ
うん…
で?



以上だ
終わりかよ!!
そうだコイツ説明下手だった!
みんなー今日は来てくれてありがとー☆
翼は人の心に残る存在になりたいってことか?
もうアイドルでも目指した方がいいんじゃないか?
フン
残念だが私はそこまで可愛くない
お珍しく謙虚な発言…
せいぜい日本のトップ止まりだろう
でもなかった
1
とにかく私はだな 重護

名探偵になって
世界中の人に
知られて そして
歴史に名を残すのだ
……
お前 それ
人には言うなよ
なぜだ?
バカにされる
からだよ!!
お前だってそんなの
嫌だろ?
バカにされるのは
嫌だが
言うのは止めない
はっ?
何でだよ!?

バカにされるより
言えなくなる方が
もっと嫌だからだ
ガシャン

あ…
大丈夫ですか？
今助けます！
あー
この道具じゃ
無理かな…
スヤスヤ
ふんっ
ドゴッ
ぐほっ!!
や――
ありがとう
ございました
いえ ご無事で
何よりです

デルルッ
あ〜天使〜!!
重護
お前このまま
やられっぱなしで
終わるつもりは
ないな?
ぐりりっ
当たり前だろ
あの部長を
一発ぶん殴らなきゃ
気が済まねえ!!
では
私に行かせろ
唯我殿の
行動に心当たりが
できた
それでは詳しい
事情を聞きますので
こちらに——
あ あの!
この二人はもう
解放してもらえ
ませんか?
事情は俺が
一人で話します
から

…わかりました
では こちらへ
後で
メールする
さて
それでは…
あの――
この部屋暗く
ないっスか？
電気つけた方が

七々々コレクションについて知っていること
洗いざらい全て話してもらいましょうか？
……

…どうしたのその格好…
いや…ちょっとした「おしおきだべ～」を受けまして…
あっはっは!!
やるなあ～唯我君!
こっちはまったくおもしろくないって…
そもそも何で部長はあの七々々コレクションのことを知ってたんだろう?

……もしかしてアレかな…？
前に私が話しちゃった……
え？
やあの！
昔冒険部の新人だった唯我君に幾つかコレクションのことを話したんだけどね？
それでその杖というのは
えへへへー
んふふふ♥
そういえば随分あの杖に食いついてたな――
なんてあはっ…！
にこっ♥
説明して七々々ちゃん
はい
ド
「魔法使いの杖」
正式名称《ドボルド・ヴァン・ザムスの杖》

中世に実在した本物の魔法使いが愛用していた杖で杖自体が強力な魔力を保有しているんだ

かつて魔女狩りの拠点になってたっていう古い教会にあったんだけどいやーあれは手に入れるのなかなか苦労したなぁ

それで その杖は どんなことができるの？

なんでもできるよ

…なんでも？

うん なんでも「地球を滅ぼせ」とか荒唐無稽なことはムリだけど理にかなっている大概のことは実現できるよ

な

なにそれぇぇ!? 本当にマジな魔法の杖っ!?

そんなの無敵じゃん!! 勝てねえ!!

ふっふっふ

それがそうでも
ないんだよなぁ
ピピー
ピピッ
ピピッ
受信
壱級 天災
唯我部長か
GREAT7のトップ
一鶴春秋と
取引をする

アジアのトップくらいはとれるかな？

龍ケ嬢七々々の埋蔵金

Nanana's Buried Treasure

りゅうがじょうななななのまいぞうきん

第6話

コツ…
待っていたぞ
重護

お待たせ
もしかして遅刻？
ズ…
…
いや時間通りだ
見ろ
チッイケメンめ
俺には負けろ
それであの二人が一鶴春秋と取引するっていうのはどういうこと？

実はな
一鶴春秋には骨董品を買い漁る趣味があるんだ
骨董品？
そう種類は問わない
ただ不可思議な曰くや特別な力の備わっているモノならなんでも高額で引き取ると言っている
それってつまり…
七々々コレクションだ
へえ…なるほどね
でもよく取引する時間や場所までわかったね？

なぁ重護…
私達は勝てるだろうか…？
なんだか急に怖くなってきてしまって…
抱きしめて…くれないか？
おおっ
不安なんだね
さあ、おいで
重護っ
俺の胸に——

ちょっ
ちょっとぉ!?
お前
重護じゃないだろ
一体何者だ

お
おいおいおい
どうしたの？
俺だよ？
重護だよ？
いい加減その
気味の悪い
喋り方をやめろ
一時間近く抱き合って
いたんだ 相手の身長が
3センチ変わっていることくらい
すぐに気がつく
……
あーあ
残念
まさか そんな
ことでバレちゃう
なんてね
もう少し君のぬくもりを
感じてみたかったん
だけど…っ
ふうっ

イケメン参上♪
おっと まさかこんな
イケメンが現れるとは
思ってなかったかな？
どうかな？
名前は言えない
けど
こっちの業界じゃ
「百面相」なんて
二つ名があるんだ
すごーい!!
本物の怪盗では
ないか!!
きゃ
ぴょんぴょん
あっはっはっ
まあね——♡
ぴょんぴょんぴょん
これは
捕まえたら
名探偵の名に
箔が付くな♡
え？

覚悟――!!
!!?
ちょ! まっ!?
本物の重護君は気にならないの!?
一応俺らが拉致してるんだけど―!?
さらば重護
来世で会おう!!
見殺し――!!?
どうやら予想通りの反応のようです
彼女はああいうのに弱いですからね
それにしても意外でした
あなたが我々《祭》に共闘を申し込んでくるなんて

もしかして
あの彼女を
危険から遠ざける
ためですか？
まさか…
そうじゃ
ありません
ただ――
あんまり
俺の正体を
知られたく
ないだけです

数時間前
あの蒼い宝石を
我々に譲る？

ほう、私達から蒼い宝石を
横取りしたあなたが
そんなことを言える
立場だと…？
ホントホント　あの後
この女ヒステリックに
怒鳴り散らして
大変でぇー

だいたい　あれは
すでに警察の手に
渡ったとニュースで…
それは偽物です
は…

八真重護ハンイチで
土下座の図
はい、
そのかわり
これから(元)仲間に
横取りされた
七々々コレクションを
取り返しに行くので
それに協力
してくれたら
なぁーと
本物は俺の家に
あります

チラ

よろしい
これで我々の獲物を横取りしたことも許してあげます
あの一 俺あの後半裸に剝かれて夜道を歩かされたんですけど…
あなたに
当然の報いですが何か?

ともかく
後は彼らから七々々コレクションを取り返すのみです
用意はいいですか?
はい
バッチリです

龍ケ嬢七々々の埋蔵金

Nanana's Buried Treasure

りゅうがじょうななな の まいぞうきん

第7話

取引時間
30分前行動なんて
立派ですね
おかげで俺達も
襲撃を敢行できました
まさか
君がくるとはね…

八真君
彼女をお願いしても？
一人で大丈夫ですか？
というか 女の子には死んでも手を上げられないので俺は部長としか戦えません
クス…
そうですか
ではお気をつけて

ドゴッ
ドゴッ
ドゴッ

こうして君と戦うことになるとは思わなかったよ
俺も予想していませんでしたよ
まさか部長の目的が七々々コレクションを売り払うことだったなんて
ハッ
おいおいまさか僕が本気でそんなことをすると思ったのかい？
そんなわけないだろう？
これがたった一億？冗談じゃない
これには一億どころか百億 いや それ以上の価値がある
これさえあればどんな願いさえ叶えることができる
最高の七々々コレクションだよ！

僕はこの
《魔法使いの杖》を使い
七重島のトップである
一鶴春秋を操り
この島を手に入れる
いきなりの
悪者宣言…
いや でも
あの《魔法使いの杖》があれば
確かに実現可能だろうな…
…で？
それだけですか？
部長がしたいのは

まさか
これは野望の
第一歩だよ
なら 教えて
くださいよ
部長の真の
目的ってヤツを
ズ---

世界征服さ！

しん
え…っと…
とにかく
それは返して
もらいます
ハイ
燃えろ
うおおっ!!?

ヤベェ
マジで本物の魔法だ!!
凍れ
薙げ
突き刺せ!!

アハハ！
素晴らしいね！
本当に何でも
思うがままだ
…っ！
ちょっとこんな行動
似合ってねえっすよ
部長…
あんたもうちょっと
真面目で実直な男だと
思ってたのに——
君のその素早い
動きは厄介だな
その場で
硬直しろ
それ
ズルイっす
!!
少し痛いよ

吹き飛べ！
バリーン
ふむ
五メートルと
いったところか
ぐ…っ
立ち上がり
気をつけ
ドヤ
スウ
ハ

吹き飛べ！
ヒュ
なるほど
声の大小や
イメージによって
威力は変わるのか
ちくしょう…この野郎…
人を実験台にしてやがる…！
…んのっ…
まだ起き上がれるのかい
タフだな
A
もう一度
吹き飛べ
つだァ！

…ふう
ありがとう
八真君
君のおかげで
いいデータが
とれたよ
それじゃ
このまま帰ってくれ
僕はもう少し
別の実験が
したいんでね
おい…
いい加減にしろよ…
テメェ何様の
つもりだ？

本当にこの島には
イラつく連中
ばっかりいやがる
名探偵に
なりたいだの
世界征服だの…
馬鹿か
お前ら！
いつの時代の
バトルもんだ！
もうそんなノリは
お呼びじゃねぇんだよ！
くだらねぇこと
ほざくな
恥ずかしくて
反吐が出る！
テメェらみたいな
ヤツは
見てるだけで
腹が立つんだよ！

ヒュウウ
八真君
君は哀れだな
ハアー!!

なんだい
そのくだらない
物言いは？
夢を抱くのが
恥ずかしいだって？
それを叫ぶことが
恥ずかしい
だって？
だったら君は一体
なんだ？
君こそ
笑わせるなよ!!
周りの人間と
同じなら
自分は正常だとでも
言うのか？
そんな連中と
一緒になって
夢に向かって
足掻く人間を
笑うのが正常か？
そんなことを
するヤツは
ただのクズだっ
他人の夢を
穢すだけの
ただの害虫だ!

人は夢を
失わない!!

だから…そんなこと
公言しても何も良いこと
ないんだって…
ただ周りから
笑われて嫌な思い
するだけで…
そんなの――
ちくしょう
…
本当に
ムカつくな
この部長
俺が何年も前に
とっくに諦めたこと
まだ平気で
やっていやがるよ

こうやって叫んでる
方がこの人らしい
けど
さっきの悪役みたいな
表情より
唯我部長
…アンタ
もしこの島を…
いや 世界を
手に入れたら
何をするつもり
ですか？
え…？
……
それは
その時になってから
考えるさ
まずはこの世界の
頂点に立つ
そうか
アンタは先のことなんて
まだ見据えていないのか

間違っていると
思える相手となら
俺はまだ
戦える
唯我部長
自分の心が折れなきゃ
まだ立ち向かえる
勝負しましょうよ

第8話

部長がご大層な
夢を抱いているのは
分かりました
だけど
俺は
そんなのは
認めない

あんたの夢が
優るか
俺の腐った
根性が優るか

勝負だ!!
FULL
龍ケ嬢七々々の埋蔵金
Nanana's Buried Treasure
第8話

いいだろう
僕の魔法を思う存分
味わうがいい
ヤハ!!
ヤハ!!
燃えろ!
ツ
燃えろ
凍れ
薙げ
突き刺せ
スウ…!!

吹き飛べ!!
…
本当に…
タフだね君は…
カラ…

ここまで
耐えられると
むしろ こちらと
しても申し訳なく
思えてくるよ
分かった
君の根性は
認めるよ
だが これ以上は
本当に命に関わる
もう帰って
眠るんだ
八真重護
ヤバイ
そうこられたら
どうしようも――!
アンタ世界征服
目論んでるくせに
そんな優しさ見せてんじゃ
ねえ…っ!

ズン
な…
なんだ…？
どういうことだ？
クッ
なぜ――！

ふ…ふふふっ　ははっ
あ――はっはっは！
ハー
ようやく
魔法が切れたか
ど
どういう
ことだ…
それは…？
部長　知らなかった
でしょ？
その杖の欠点を

〈魔法使いの杖〉の最大の欠点
それは
魔法に回数制限があることだ
そん…な
バカな…
そんなこと
七々々さんは一言も…

昔
七々々ちゃんからは
いいところばかり
聞いたんでしょう？
その杖には
欠点だってあったんですよ
『あの杖の魔力を
補充するには
かなりの時間と
労力が必要なの』
『つまり無作為な
魔法の乱用は
命取りってこと』
『最強なんてチートは
この世に存在しない』
らしいですよ
あんたは杖を
手に入れた後
そのことを
七々々ちゃんに聞きに
行くべきだったんだ
だけどあんたは
あえてそれを
しなかった

後ろめたかったんだろ
俺達を裏切ったことが！
あんたは最後の最後で自分の行動に自信を持てなかった
胸を張れなかった！
そこまでしても揺るがないだけの信念を持てなかったんだ…！
あんたの夢はその程度だったってことだ…！

…
ダセェ
マジでダセェ
お前は死ね
八真重護…！
なに偉そうに
講釈垂れて
いやがる
テメェなんか
とうくの昔に
自分の信念捨てて
周りに溶け込んだ
カスだろうが！

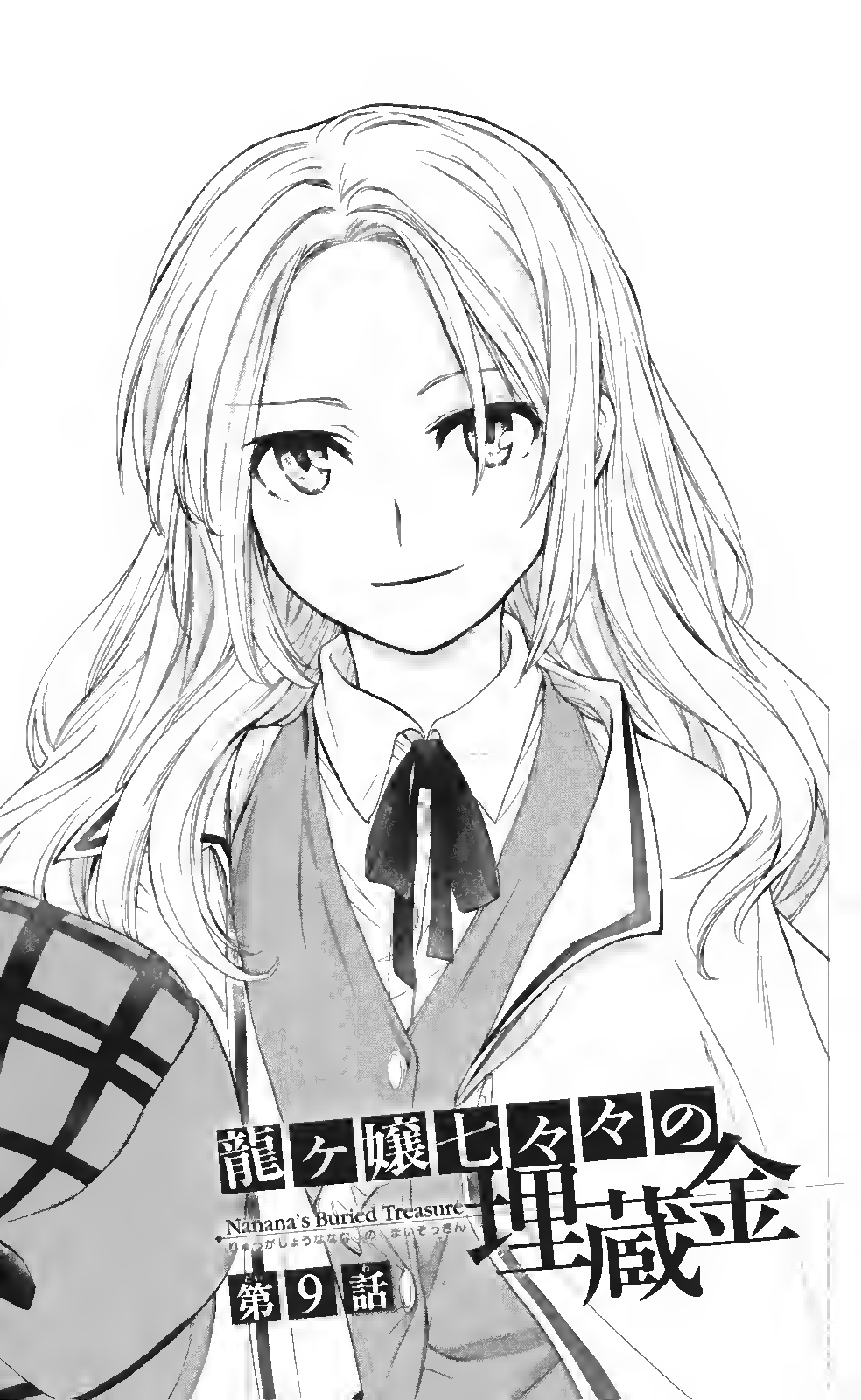
……
ぐ……っ
……
殴らないのかい
…別にその必要もないでしょ？
俺の勝ちってことで
その杖、下さい

それはできぬ
相談だな
えだつ
誰
俺は
徒然影虎と
いう
そして
とんっ
許せ後輩
それは一心の
野望のために
渡すことはできん

大丈夫ですか？
……あ――……
……
先輩達は……？
逃げました
あの徒然なる男
中々の手合いです

…なぜ
殴らな
かったんですか？
…はは…
なんで
でしょう…？
――なんて
単純に
嫌だったんだ

『人は夢を
失わない!!』
たとえそれが
突拍子のない
ことでも
あんなふうに
夢を追いかけている
奴を
否定することが
ぼすっ
はは…
つかれたー
なんなさ
？
ところで
この不甲斐ない結末の
落とし前は どう
つけてくれるんです？
えっ？


龍ケ嬢七々々の
埋蔵金
Nanana's Buried Treasure
りゅうがじょうななな の まいぞうきん
第9話

ハアッ
ハアッ
二人とも無事かい？
ええっ
なんとかな

随分あの後輩に言われたい放題だったな
まったくだ何も言い返せなかったよ
「この杖に回数制限がある」——
少し考えれば思いつきそうなモノだったのに
「最強なんてチートはこの世に存在しない」か…
七々々さんは嫌なことを言うな

だが
あの後輩
悪いやつでは
なかったな
どこがよ！
一心様をボロクソ
貶しやがって――！
ヤアアアッ
一心の夢を
「その程度」と
言っていただろう
それは暗に　さらに上を
目指せると言っていた
んじゃないか
……
それはそうと
一心様
その杖はもう
使えないの
ですか？
いや
四〇〇年前から
使われている
この杖の使用回数が
今回ちょうど尽きたとは
考えにくい
方法は分からないが
おそらく補充は
可能なはずだ
とにかく
この杖さえあれば
もう一度――
っ…!?

にゃ
うはうはうは!!
て…っ
天災くん…っ!?
そうっ
誰もがご存知
名探偵 壱級天災!
といっても
今だけは
一鶴春秋の使い
ですがね

一鶴春秋の…!?
…どうする 一心
切り抜けるか?
……っ
…いや
僕やタには 荷が重いね——
はい確かに
…では
こちらが 報酬の 小切手です
…は?

ちょっ
いち
十
百
千

小切手
一億…っ!?

一鶴氏から
伝言です

「私はビジネスはするが
強盗はしない」
「今後も私は
七々々コレクションを
金で買う用意がある
いつでも連絡をくれ」
だそうですよ

それと
もう一つ
「この島を
手中に収めたいのなら
いつでもかかって来い」
だそうです
フロロロ……
いちおく
いちおく
…なんだか
貰うのは癪だな
¥100,000,000
では
破り捨てるか？
…いいや
大人しく部費として
もらっておくよ
なにせ僕の
野望はまだ
達成されていない
からね

七重島診療所
え
受付
なぁに
ボウヤ
よく聞こえ
なかったわ
お姉さんにもう一度
言ってちょうだい
お金が
ない？
どういうこと
なのかしらね
ちゃんちゃら
おかしいわ
ホホホホホ
学校に電話
しましょうか
だあああ
待って下さい！
お金が無いこと
忘れてたんです
スミマセン!!
え？
絶対
絶対にいつか
返しますから——
スッ

すいません
会計は僕が
払います
イツ
イケメエ――ン!!
それで
用はなんですか
今度こそ殴られに
来たんですか?
それもあるね

あの杖
どうしました？
強制的に
徴収されたよ
誰に？
大人に
ざまあ
みろ！

まったくだ
後輩を裏切って
無駄に力を振り回して
結末がこれじゃあ
さまあないよ

…それで
これから
どうするん
ですか？
もう諦めるか
それとも――
また何か
別のモノを探すよ
自分の野望に
役立つ
《七々々コレクション》を

そっすか
それじゃ　また
月曜　部室に
顔出しますから
とぅこいしょ
えっ？

ぼ…
冒険部を
辞めないのかい？

辞めても
いいんですけど
俺も〈七々々コレクション〉
には用があるんで
冒険部にいた方が
都合がいいんです
もう裏切りは
無しですよ

それは
保証できないな

やあ
何してんだ
こんな所で
ふっふ――ん♪

重護を待っていた
感謝してくれてもいい
ぶっ！
ちょっ
ケルベッ
なーにが「待っていた」だふざけんな
俺のこと見捨てたくせに！
な何のことだっ？
ズズズズ
俺が《祭》に拉致されてたのにお前見捨てたじゃねーか！
忘れたとは言わせねぇぞ
さらばだ重護 来世で会おう！
ギャ
オラオラ何か楽しい言い訳でもしてみろやん？
ぐぐぐ
ぐりぐりっ
わあっ ちょっ やめっ
ぷっ
な何でだ？
だって

重護は怪盗団
《祭》の関係者
じゃないか

…は…？
なお
ふん
ふんっ
狂言誘拐を
叫んでいたお前達に
何で私が付き合わ
なければならない
のだ
いや…
いや！ 待って お前…
一体何を…
何で
そのっ
えっと…
何だ？
重護
……

なんで
分かったの？

Nanana's Buried Treasure

そう

龍ケ嬢七々々の埋蔵金

りゅうがじょうななななのまいぞうきん

Nanana's Buried Treasure

最終話

ウチの家系は
江戸時代より続く
由緒正しい
怪盗一家

《祭》の本体です。

勘当され
島流しになった
……
そして
この俺
八真重護は
14代目頭目になるべく
育てられ——
ドンッ

いつから…
気づいてた…？
最初からだ
確信したのは
重護の携帯電話を
チェックした時だけどな
あの時!?
嘘だろ…？
早すぎだ！
深夜のコンビニ
お前がメイドさんの本を見て
腰が引けたのは「携帯が震えた
から」だと言っていた
ああ…
メールも着信も
ないからって
誰も信じて
くれなかったけどな
ビクッ
ビクッ
いいや
私は信じたよ
携帯が震える理由は
その2つだけじゃない
そう…
たとえば
アラームとか
！

アラームは宝石の入った箱が
路地裏に降下してくる
タイミングでセットされていた
なぜお前にそのタイミングがわかったのか？
それは《祭》の計画を知っていたからだ
では なぜそれを知ることができたのか？
それはお前が《祭》の関係者だからだ
そしてお前はその計画を横取りした
…
証拠はあるのか？

祭
~Matsuri~

いや！
まさか《祭》がSNSを使っているとは思わなかったぞ！
はっはっはっ
ちょおおおおお!?
まっ!? そのページ《祭》のメンバーしか見れないはず…！
カチャチャチャ

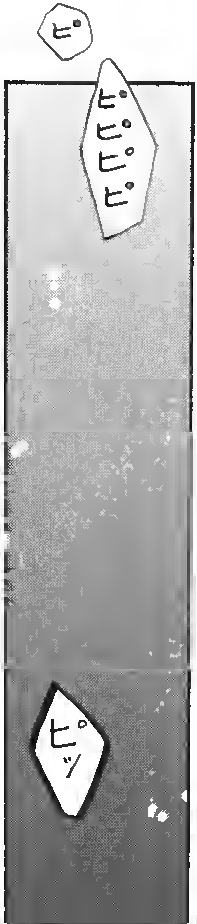
ハッキング
お前それ普通に犯罪だからな——!?
消去

ライジングビルの時も
そうだったんだろう？
お前は実際は
警察になど電話せず
《祭》の二人に助けを
求めたんだ
…そんでお前は
背後て俺の携帯の
内容を盗み見
していたわけか
にゃ――っはっは！
すごい
だろう!!
それで
どうする？
俺を警察にでも
突き出すか？
ふっふっふ…
重護よ
名探偵に一番
必要なものは何だと
思う？
はっ？

ライバルだ!!
名探偵が人々の心に
残るのはライバルとの
名勝負があるからだ!!
ちなみにそいつは
悪者の方が
もちろんいい!
悪のサラブレッド!
秀でた身体能力!
計算高い頭脳!

そして
悪者っぽい目つき!!
ちょっと
待て――!!
お前まさか
それを俺にやれとか
言わないよな!?
な!?
ああっ!
やれとは
言わない
もう
なっているからな
どうだ 重護

これが名探偵
壱級天災だ！


ピ
ピピピピ
ピッ

オイ クソ親父
何時だと思ってやがる

フン
雪姫から報告を
受けたんたよ
お前《祭》には
愛想か尽きたんしゃ
なかったのか？

…ハッ

ああっ
尽きてるよ！
困ってる人を
助けるとかなんとか
むずかゆいことばっか
並べやがって
頼まれたって
後は継がねぇからな
あんな時代遅れの
義賊！
ふんっ…
そもそも お前に
俺の後を継く
資格はねえよ
重護
はっ…？
お前は人が
好きじゃないからな

何…
勝手に…
お前は
相手の心を
見ようとしない
他人を
好きになるのは
いつだって「ある程度」
までだ
本気で誰かを
救おうとは
思えない…
それなりに力が
あるのにな
――っ…！
うるさい！
そんなに人助けが
やりたきゃ親父達
だけで勝手に
やってろよ！
俺はごめんだっ
そんな面倒事
死んでもやらない！
俺はっ
俺は…っ

八真君！
何描いているの？
とっても上手ね
へへっ
父さん！
小さい頃はまだよかった
悪人や金持ちから金を盗んで貧しい人にばら撒く
子供だった俺は家業が誇りだった
盗みは胸を張れることじゃないが誰かを救っているという事実が俺を誇らしくした
だけど――
僕の夢は怪盗団です

俺が本気だと
気付くと
気持ち悪がった
周りの大人も
同級生たちも
冗談だと笑って
自分の家が
異質だと
知った
ドニヤッ

…重護
俺はな
最近世の中か
心底嫌になったから
どうにかすることにした
…は…？
なんだよ　ははっ
親父まで世界征服
するなんて言い出す
つもりか？
ああ
…は？
俺は…
《祭》なんか…！

お前は人間か
嫌いかもしれないか
俺は人間か
好きだ

俺はそいつらの
「可能性」という物に
惹かれた

たから それが
なくならない土台を
俺が築く

歴史を作った先人
世界を動かすオヤジ
バカ騒きする若者
可愛い子供

何かすごいことを
やってのける可能性
他人を感動させたり
幸せにしたりする可能性

《七々々
コレクション》
を使ってな

ふっふざけんな
オッサン！

馬鹿じゃねぇのか!?
時代遅れな考えは
やめろ！

馬鹿はお前た
重護！

まだ
分からないか
他人の顔色に
振り回されている時点で
お前の考えに
意義はない

お前は人を批判するだけで何もしないクスと一緒なのか
正しいことがしたいならじっくりと正しいことをしていけばいいだろ…
時間が惜しい
…それは俺が後を継がない事に対する文句…かよ…
あっはっはっはっ!!
!?
!?
ははっ…オイオイオイ

舐めるなよ
小僧
たったら
俺は自分の
していることに
誇りを持っている
そして後を継ぐ者が
たまたま
俺の代でいなくなった
だけだ
俺の代でケリを
つける

八真家の
最後にして
最大最高の世直した
…っ…は
ははははっ

カッコイイじゃねえかよ
クソ親父…
おかえり
重護
ただいま
七々々ちゃん

あれ？ 重護 それ持って帰っちゃったの？
取引に使うんじゃなかった？
うん まあね
はい 実は雪姫姉さんに渡したのも偽物です
若干あの今度という今度は!!
これバレたらどうなるんだろう…こわ――
重護って実は結構悪者だよね
えっ いやいやそんなことは!?
ふふっ まあ重護だったらいいかな
えっ…？
重護だったらきっといいことに使ってくれると思うから

俺って世界征服できると思う？
えっ
うーん
できるんじゃない？
なんでそう思うの？
かなり時代遅れで異常なこと言ってると思うんだけど
七々々ちゃん
…ね
うーんだってさこの私を出し抜いて殺した犯人を重護は見つけてくれるんでしょ？
だったら
重護は私より犯人よりすごいってことじゃん

だったら
世界征服くらい
できるよ

そっか…
じゃ　頑張っちゃおうかな
なんで勘当されて転校させられた先がこの七重島だったのか
答えは簡単だ
ここには世界をひっくり返せるだけの宝がわんさかあるからだ

つまり俺は最初から親父に踊らされていたのだ
代わりに宝を集める人間として

よう重護か
答えは決まったか
その島でお前か
これからどうするか
おう
わかんないから
もう少し
考えてみる
「いつか」世界が好きになったら
その時は――

それまでは
目の前にある
大事な約束を
叶えてみせよう

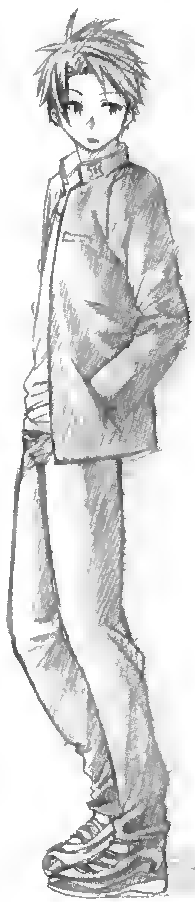
大切なのは

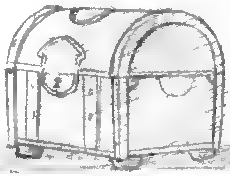
「本当にそうしよう」

と思える自分だけの気持ちを持つこと

それさえあれば、迷い揺らぐことなんて

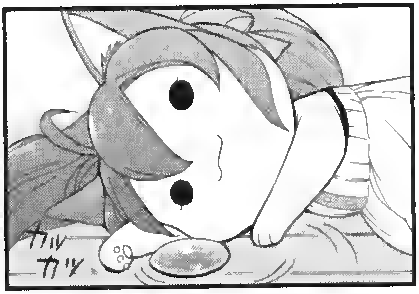
決してない

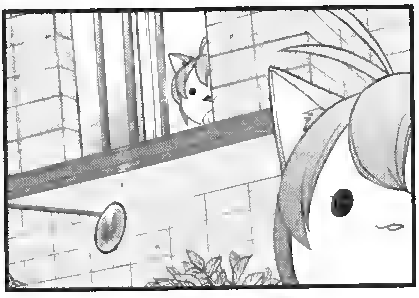




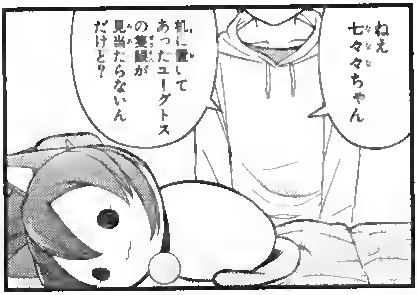
龍ケ嬢にゃにゃにゃ

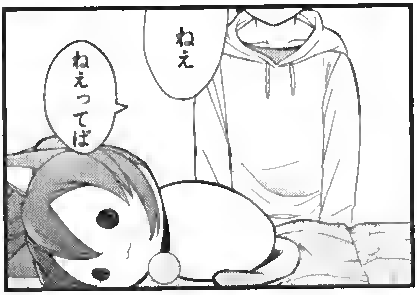
『ああ〜〜〜っ…』

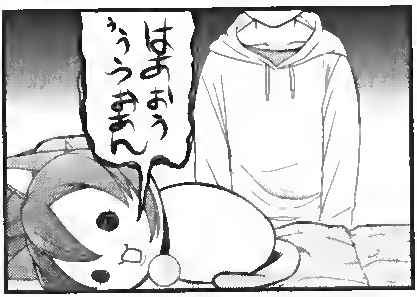


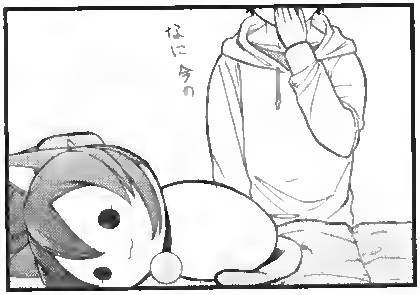


びっくりだよ









●エピローグ●

よーう 重護
昨日は朝帰りだったみたいじゃない
やるねぇ
隼季さんこそ真昼間から相変わらずの飲みっぷりですね
いついかなる時もこれさえあれば
ゴキュゴキュッ
あ、そういや重護のお隣に新しい子が入ったから
にゃはは
ああ…はい知ってます
げそっ
ていうかあそこ別の人が住んでませんでしたっけ?
ほや〜
ああ角野ね
あいつは追放されました
なんで!?
だって家賃ひと月待ってくれって言うんだもん
金の切れ目が縁の切れ目!?

まあ しなびた大学生の代わりに可愛い子達が入ってくれて万々歳じゃない
はっはっは
喜んでるみたいですけどあれ一人は男ですよ
知ってるよ抱きついたらあそこにアレがあったから
セクハラァッ!!
まっ なんかあったら言いなさい私は帰ってまた飲むから
まだ飲むか…
アル中にもほどがありますよいい大人が――
えっ…?
ん?
あっいえ!何でも!

気のせい…
だよな

あとがき

こんにちは。赤瓦です。
この度は『龍ヶ嬢七々々の埋蔵金』を
お読みいただき有難うございました。
このコミカライズは初の連載ということもあり、
色々なことに挑戦しながら手探りで描かせていただきました。
私はこの作品に育てていただいたと言っても過言ではありません。
読者の皆様、原作者の鳳乃一真先生、担当様、
本当に有難うございました！
これからも重護や七々々ちゃんの活躍【原作】を楽しみにしています！

赤瓦もどむ（あかがわら）

〈収録作品メモ〉

●龍ヶ嬢七々々の埋蔵金　第3話　花LaLa online 2014年9月26日公開
第4話　花LaLa online 2014年10月17日公開
第5話　花LaLa online 2014年11月7日公開
第6話　花LaLa online 2014年12月5日公開
第7話　花LaLa online 2015年2月6日公開
第8話　花LaLa online 2015年3月6日公開
第9話　花LaLa online 2015年6月19日公開
最終話　花LaLa online 2015年7月10日公開

花とゆめCOMICS
龍ケ嬢七々々の埋蔵金②

2015年8月25日　第1刷発行

著　者　赤瓦もどむ
©Modomu Akagawara 2015
［原作］鳳乃一真
［キャラクター原案］赤りんご
発行人　矢倉孝裕
発行所　株式会社　白泉社
〒101-0063
東京都千代田区神田淡路町2－2－2
電話・編集 03(3526)8025
販売 03(3526)8010
制作 03(3526)8020
印刷所　図書印刷株式会社
装　丁　fabric engine(中谷 陽)
ISBN978-4-592-21752-7
Printed in Japan　HAKUSENSHA

●造本には十分注意しておりますが、落丁・乱丁（本のページの抜け落ちや順序の間違い）の場合はお取り替え致します。購入された書店名を明記して「制作課」あてにお送り下さい。送料小社負担にてお取り替え致します。但し、新古書店で購入したものについては、お取り替えできません。
●本書の一部または全部を無断で複製等の利用をすることは、著作権法が認める場合を除き禁じられています。また、購入者以外の第三者が電子複製を行うことは一切認められておりません。